# 岩手県立博物館だめ

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum 岩手県立博物館ホームページアドレス https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2025. 9 **NO.** 

186

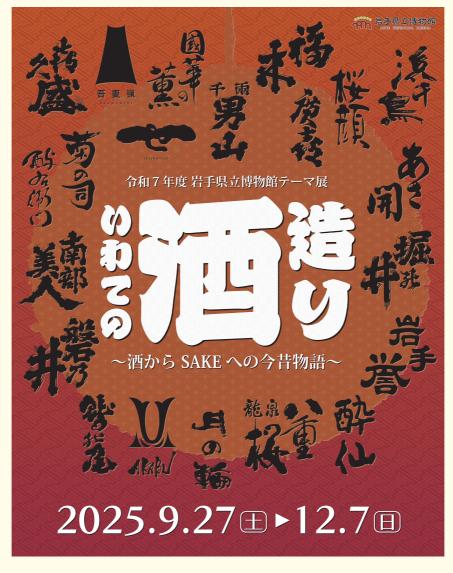
目次/表紙 テーマ展「いわての酒造り~酒から SAKE への今昔物語~」/ p. 2-3 いわて文化ノート「考古学者がやっていること―「型式編年」て何?」/ p. 4-5 展覧会案内 「テーマ展 いわての酒造り~酒から SAKE への今昔物語~」/ p. 6 事業報告「県博バックヤードツアー」/ 事業報告「第89回自然観察会」/ p. 7 事業報告「第89回地質観察会」/ 事業報告「綾里千田家文書の寄贈受け入れについて」/ p. 8 インフォメーション

# テーマ展

# 「いわての酒造り~酒からSAKEへの今昔物語~」

令和7年9月27日(土)~12月7日(日)

場所: 2階 オザワ工業ぎゃらい一(特別展示室)



南部杜氏を中心とした岩手の伝統的酒造りに着目し、歴史、製造技術、酒文化などについて展示・紹介します。

# ■いわて文化ノート

# 考古学者がやっていること―「型式編年」て何?

考古部門 主任専門学芸員 金子昭彦

昨年本誌No.182で、考古学関係の本としては近年珍しくベストセラーになった竹倉史人著『土偶を読む』を取り上げ、考古学の成果に学ばず土偶の歴史的変化を無視した結果致命的なミスを犯していると紹介しました。氏は「土器のような型式・編年的な目録をいくら作ったところで、その謎が解けるわけもない」(『土偶を読む図鑑』p.108)と型式編年研究を全否定していますが、土偶の後半期だけとっても三千年もの歴史を一緒くたに扱えるわけがないことは、現代の三千年前が、まだ縄文時代であったことを考えれば一目瞭然です。そのために「時代考証」というものがあるわけです。

# ■型式・編年

氏が毛嫌いする「型式・編年」ですが、 考古学者はそれほどたいそうなことをしているわけではありません。「型式」とは 昔の流行の単位、「編年」とは、それを時期の順に並べることです。考古学は、歴史学の仲間なので時期の特定が欠かせません。ところが、文書を扱う歴史学と違って考古学はモノを研究対象としています。モノに時期が書かれていることはめったにありませんし、そもそも文字や歴史すらなかった時代を主に扱います。考古学者が時期を決めねばならないのです。

モノから時期を判断する場合、最も頼

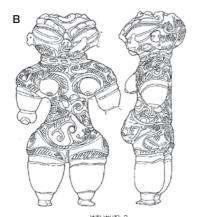


図2 田野畑村浜岩泉 I 遺跡の土偶 金子昭彦1991 『岩手考古学』第3号論文

りになるのは流行の変化です。身近な服 や車の変化を想像していただけばわかる でしょう。ところが、モノだけでは流行 の新旧を判断することができません。服 や車の場合は、私たちがいつ流行したか 知っているからわかるのです。

ここで頼りにするのが地質学です。 「地層塁重の法則」をご存じでしょうか。 土は通常下から上に積もるので、下の地層ほど古いということです。これだけだと、他の場所の地層と直接比較できないので、地層に含まれる、その時代を特徴づける「示準化石」を頼りにします(「地層同定の法則」)。「示準化石」に相当するのが考古学の「型式」で、地層を頼りに型式の新旧を決めていくのです。

地質学の方法を考古学に応用するわけですが、地質学で扱う時代・タイムスパンと違って、考古学で扱うのは、地表面に近い、時には数十年単位で区分される細かい時期です。 堆積後ミミズなどによって絶えず改変にさらされるばかりか、改変でちょっと上下に動かされただけで大きく狂ってしまいます。

考古学に適した現在まで続く方法に改良したのが、先史学者山内清男氏でした。改変による混入を識別するために、「系統的変化」という概念を中心にすえたのです。現代の流行もおおむね徐々に変化しており、突然全く別の異質なもの

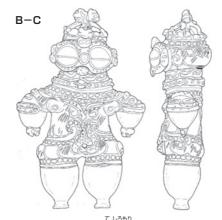


図3 盛岡市手代森遺跡の土偶 岩手県文化振興事業団調査報告書第108集

に変わり続けているわけではありません。

# ■大洞式土器の編年

図1は、その山内氏が大船渡市大洞貝塚の発掘調査で地点ごとに確認した縄文時代晩期の土器型式で、左から右に新しくなります。論文発表から百年近くたちますが、今でも普通に使われています。アルファベットはその地点名を表し型式名としていますが、「大洞B-C式」は、他の遺跡を参考にして「大洞B式」と「大洞C」式」の間をつなぐ土器型式があると判断して設定されました。「C」の後にある数字は、地層ではなく系統的変化から区分できると判断されたものです。

図1は、浅鉢形土器の型式ごとの口の模様の変化を示したものです。大洞B式の三叉路が組み合わさったような線模様(入り組み三叉文)の上下に細かい縦線を入れたのが大洞B-C式の羊歯状文で、以後上下に圧縮されたような形になって平行化し(大洞C¬式)、横線の間にあった縦線が、大洞C $_{2</sub>$ 式になると横線の底に落ち込みました。大洞A式では、横線から枝が縦に伸び新しい方向に向かいます(エ字文)。この後本来ならA地点の拡張区で確認された大洞A´式が続きますが、ここでは省略しました。

土器は普遍的で大量に出土する上、壊れやすく次から次へと作り替えられ流行

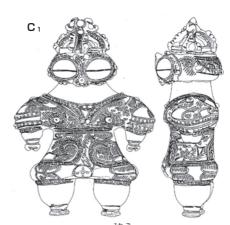
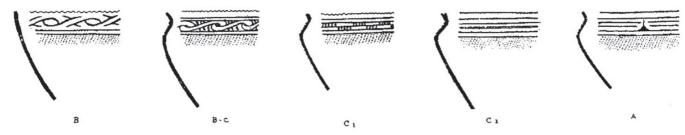


図4 久慈市二子貝塚の土偶 佐々木和久1984『九戸文化』第1号論文



**図1 大洞式編年** 山内清男1930『考古学』1-3論文

の変化の速度も速いので、日本考古学で は多くの場合土器型式を時期区分の目安 とします。土偶など出土が少ないものの 時期は、土器型式を頼りにし、同じ地層 から出土した土器で主に判断します。

# ■大型遮光器土偶の編年

こうした作業の結果把握された大型遮 光器土偶の編年(系統的変化)を見てみ ましょう。遮光器土偶は、東北地方の縄 文時代晩期に存在し、この時期の土器型 式は、さきほどの大洞式編年です。

大型遮光器土偶は、左端の図2から始まって右端の図7まで時期により変化していきますが、実際には図7の後の大洞A式の時期まで存在しました。

図2の大洞B式の時期では、まだ写実的で口も鼻も耳も明瞭に表現されていて乳房も大きく、大きな目も下は縁どられておらず仮面状になっていません。図3の大洞B-C式期になると、目の下も縁どられて仮面状になります。首が長くなっ

て、上下を埋めるように三段構成の模様になります。ここまでは全身縦長でしたが、ここからは横長になっていきます。乳房は、この後最後まで小さいままです。

大洞 $C_1$ 式期では、首に模様がなくなり、これ以降継続します(図4)。胴の模様構成が表裏とも二段になります。

型式はおおむね模様装飾が多いほど細かい変化がわかります。大洞C2式期の大型遮光器土偶では百年前に確認された土器型式より細かい変化がわかっていて、まず古段階では、これまで線で描いてきた目が、遮光器前の粘土粒の表現に戻り胴の模様も一段に戻ります(図5)。次の中段階では、一段と横長になって脚が大きく表現され、肩と腰のラインは直線化し平行になります(図6)。新段階は、大型遮光器土偶最大のモデルチェンジで、胴に模様はなくなって肩と腰に移ります(図7)。最後の大洞A式期は図示しませんでしたが、大洞C2式期の新段階から大きな変化はなく、模様が、同時期の土器

と同じで縄文が施されなくなります。

大型遮光器土偶が存在する大洞B式から大洞A式期までは、約3,100年前から2,600年前までの約500年間で、線で大きく描く遮光器の目は、大洞C<sub>1</sub>式期までの約300年間しか見られません。この年代は、言うまでもなく考古学で分かったものではなく、一緒の層から出土したり土器にこびりついていた炭化物などを自然科学的手法で測定したものです。

「型式編年」なんて別に難しくないことがお分かりになったかと思います。二つの絵を見比べる「間違い探しクイズ」によく似て、特に最近テレビで見られるようになった動画で変化するものは、時期によって変化する型式編年そのものです。竹倉氏が何をそんなに恐れているのかわかりませんが、考古学の型式編年の成果も取り入れてもらえば、もっとすばらしい解釈が生まれることでしょう。なお、以上のことは今年の12月14日の県博日曜講座で詳しく説明する予定です。



**図5 北上市大橋遺跡の土偶** 岩手県文化振興事業団調査報告書第481集

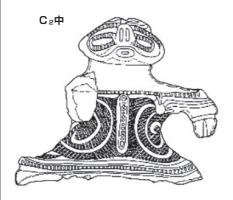


図6 青森県広船出土の土偶 鈴木克彦1981青森県立郷土館年報6論文

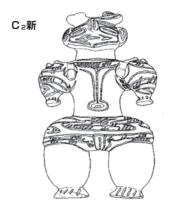


図7 山形県杉沢遺跡の土偶 「土偶とその情報」研究会1996資料集

# ■展覧会案内

# いわての酒造り~酒からSAKEへの今昔物語~

会期:令和7年9月27日(土)~12月7日(日) 会場:オザワ工業ぎゃらりー(特別展示室)

# ■はじめに

2024年12月、ユネスコ無形文化遺産の第19回政府間委員会において、「伝統的酒造り」が日本では23件目の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載(登録)されました。

岩手県では、日本三大社氏のひとつと される「南部杜氏」が世界に認められた 伝統的酒造りの知識と技術をつないでき ました。

今回の展覧会では、南部杜氏を中心と したいわての酒造りに着目し、その歴史 や製造技術、岩手の酒文化などについて 展示・紹介します。

# ■プロローグ

# 「伝統的酒造り」といわての酒蔵

ユネスコ無形文化遺産とはどのような もので、「平泉」、「明治日本の産業革命 遺産」、「北海道・北東北の縄文遺跡群」 等の世界遺産との違いはどこにあるので しょうか。

同じユネスコでも、世界遺産は不動産 や遺跡など有形のものを対象とします が、無形文化遺産は芸能や祭礼、自然及 び万物に関する知識及び慣習など、無形 のものを対象とします。また、世界遺産 では顕著な普遍的価値があることを重視 しますが、無形文化遺産の場合は変化を 前提としているため、価値の優劣を付け ず、文化的多様性、保持するコミュニ ティを重視します。

さて、今回ユネスコ無形文化遺産に認められた「伝統的酒造り」(ユネスコ無形文化遺産名称:Traditional knowledge and skills of sake-making with koji mold in Japan)とは、杜氏・蔵人等が麹菌を用い、長年の経験に基づき築き上げてきた酒造り技術のことを指します。日本各地の気候風土に応じて発展し、日本酒だけでなく、焼酎、泡盛、みりん等の製造にその技術は受け継がれてきました。

本章では、ユネスコの制度、今回認められた伝統的酒造りの概要及び岩手県内に現存する21場の酒蔵等を紹介します。

# ■第1章 酒造りの歴史

酒造りは縄文時代からあったといわれています。このころの岩手ではヤマブドウやニワトコで作った果実酒などを注口 土器に入れていたと考えられます。

(いわて文化史展示室でトピック展示を行っていますので、こちらもご覧ください。)

日本酒の造りについては奈良時代の大 にでは、 にで記されています。特に『播 磨国風土記』は麹を使った最初の記録と されています。その後の記録となると中 世以降です。現在の技術にもつながる三段仕込みや火入れの技術の記録が『多聞 院日記』などでみられるようになります。江戸時代に入るとさらに酒造りは大 規模化し『日本山海名産図絵』などにそ の様子が記されるようになります。

一方、県内関係の資料となると、盛岡市の志波城から「酒所」と記された土師器が出土しており、平泉町の柳之御所遺跡から出土したものとして、酒宴で使用したとみられるかわらけや提子の金具などがあります。

本章では日本、岩手における酒造りの 歴史について紹介します。

# ■第2章 南部杜氏の酒造り

江戸時代に入ると南部氏がまちづくり において、商業活動を重視し、近江商人 を受け入れます。

この頃に来た近江商人の一人が村井権 兵衛です。盛岡に来てからは行商で生計 を立てていました。

盛岡藩から志和(現在の紫波町上平沢など)が八戸藩の飛び地となり、代官所が置かれることになると村井権兵衛は代官所の隣にて造酒屋と質屋の営業を願い

出、許可されます。

村井権兵衛は大阪池田から職人を連れて澄み酒(清酒)を造らせると評判となり、自分のところだけでは醸造が間に合わないことから、近隣農家に技術を伝授し、下請けで作らせるようになります。

南部の人が作る酒はうまいと評判になり、夏場は地元で農作業、冬になると仙台などに出稼ぎで酒造りをするようになります。これが南部杜氏の原形と言えるかもしれません。

ところで、杜氏とはどのような人でしょうか。杜氏とは酒造現場の最高責任者で、酒造りの実務を行う蔵人の監督や工程管理のみならず、蔵元の意向に沿う酒造りをするための計画づくりなども行います。技術ばかりでなく判断力、統率力、マネジメント力なども求められます。

さて、酒造りに関する記録は杜氏の間での口伝や門外不出の秘伝書として伝えられることが多く、秘伝になることが多いものでしたが、明治26年、石鳥谷生まれの鎌田伊代治杜氏が『秘伝名酒造法』を残します。本書には酒造りの方法、様々な調整法等が記載されています。



**秘伝名酒造法(明治26年)** 石鳥谷歴史民俗資料館蔵

現在、一般社団法人南部杜氏協会が開催する「夏季酒造講習会」は全国に門戸を広げており、この講習を受講し、資格選考試験に合格した南部杜氏が国内各地で活躍しています。

本章では南部杜氏に関する資料を展示 するとともに、昭和63年に制作された 「南部杜氏」の映像を上映します。

# ■第3章 酒を造る

米・水・麹が主原料となる日本酒。米に関して、一般には酒造好適米を使用します。全国的には山田錦が有名ですが、近年では各都道府県の特性を生かした酒造好適米が開発されています。岩手県でも「結の香」などが開発され、県内の多くの酒蔵で使用されています。麹や酵母においても各県で開発されたものが使用されつつあり、麹では「黎明平泉」などが、酵母では「ジョバンニの調べ」、「ゆうこの想い」などが岩手県独自のものとして開発されています。

令和5年には国税庁長官から地理的表示(GI)「岩手」の指定を受け、米、麹、酵母、水すべての原料を岩手産のもので造り、県内で醸造・貯蔵・容器詰を行う「オールいわて清酒」が造られています。

さて、酒の造り方は大きく三種類に分けられます(醸造酒・蒸留酒・混成酒)。 日本酒は原料を酵母の働きで発酵させて 造る醸造酒に分けられます。

日本酒の場合、原料となる米には糖分が含まれていないことから、米を糖化させることが必要です。その米を糖化させるのに必要となるのが麹です。また、アルコールを造るには糖分を発酵させることが必要になります。この糖化と発酵を同じ容器の中で同時に行うことを並行複発酵といい、主に日本酒造りで使用される発酵方法となります。

工程も複雑です。精米・洗米・浸漬した後に、米を蒸します。蒸した米(蒸米)に麹菌を混ぜて米麹にします。できた米麹に蒸米、酵母、水を加えて酒母(酛)を造ります。酒母に米麹、水、蒸米を三回に分けて加え(三段仕込み)、酸を作り、並行複発酵させます。発酵が落ちついたら搾り、固形分の酒粕と液体の原酒に分けます。その後原酒はろ過、

加熱処理を行い、貯蔵、出荷されます。 この酒造工程を描いた額が盛岡市津志 田の大国神社にあります。



**酒造図絵献額** 大国神社蔵・盛岡市指定文化財

この献額は、洗米、製麹、酒母(酛)づくり、仕込み、圧搾を上下2段で表現しています。宝暦13年(1763)に刊行された『日本山海名産図絵』の「摂州伊丹酒造」と同じ構成であることから、制作年代はこれ以降になるものと思われます。

本章では、岩手県において現在使用されている酒造原料、製造工程及び使用した道具等を紹介します。

# ■第4章 酒を売る

現在ですとネットショップやホームページ・SNSによる広告が増えていますが、その前は印刷物や看板、テレビCMなどが中心でした。平成18年(2006)に廃業した岩手川のCMソングは記憶のある方も多いのではないでしょうか。



**藤村酒造店の引札(明治35年)** 喜久盛酒造株式会社蔵

写真は北上市に所在する喜久盛酒造 (株)の前身である藤村酒造店の引札で

す。引札はいまでいうビラ・チラシに当たります。この引札には明治35年 (1902) 年間暦や銘酒藤正宗の樽、 猩々などが描かれています。

本章では酒類の販売に関する道具や販 促グッズ、広報等について紹介します。

# ■第5章 くらしと酒

お酒は暮らしの中で欠かせないものです。神様にお供えする御酒(神酒)、冠婚葬祭など、多くの場面で日本酒は存在感を示してきました。

また、岩手県内の酒造りにおいては酒 造りの神様のなかでも松尾様を信仰して いる様子がうかがえます。

本章では当館所蔵資料を中心としたく らしとお酒の関わり、酒造りに係る信仰 等について紹介します。

# ■エピローグ

# いわての酒造りのこれから

国内市場の縮小、温暖化やコメ不足、 多発する自然災害など、日本酒を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方、 和食との相性の良さなどから、SAKEと して海外での関心と輸出が年々高まって いること、若手や外国人杜氏の登場な ど、期待される側面もあります。

エピローグでは、こうした酒造りのこれからについて、まとめていきます。

# ★関連事業

テーマ展関連事業として、展示解説会のほか、2回の県博日曜講座、文化講演会、酒蔵見学会など、多くの事業を予定しています。詳しくは各種広報物やホームページ等でご確認ください。また、市街中心部では「いわて酒ノ宴」など、お酒関係のイベントもありますので、今回のユネスコ無形文化遺産登録を契機に日本酒を楽しみながら学んでいただければと思います。

(民俗部門 戸根貴之)

# ■事業報告

# 県博バックヤードツアー(2025年度「国際博物館の日」関連事業)

開催日:令和7年5月18日(日)

5月18日は、ICOM(International Council of Museums:国際博物館会議)によって制定された「国際博物館の日」で、博物館が社会に果たす役割を広く普及・啓発することを目的として定められた記念日です。

当館では毎年、この記念日を無料開館日とし、あわせてバックヤードを見学するツアーを実施しています。バックヤードは、資料保護の観点から厳密な温湿度管理や防犯体制が必要であり、普段は一般の方の立ち入りを禁止していますが、この日に限り特別に見学できる機会を設けています。ツアーは自然と歴史の2つのコースで、それぞれ関係する部門の収蔵庫や設備の見学を行いました。

自然コースは生物部門と地質部門の収

蔵庫を見学しました。生物部門の収蔵庫では、動物の剥製、植物や昆虫の標本、水生動物などの液浸標本を見学しました。参加者は真っ白いツキノワグマや、引出しにたくさん収納されている研究用の鳥類の剥製に驚かれた様子でした。地質部門の収蔵庫では、岩石や化石の標本、巨大なクジラの骨格標本を見学しました。棚に納められた標本箱の中から興味のある鉱物を見つけ、学芸員へ熱心に質問する参加者の姿が見られました。

歴史コースは、歴史部門、民俗部門、 考古部門の収蔵庫を見学しました。歴史部門の収蔵庫では、甲冑、日本刀のほか戦前に描かれた幅4mを超える絵図「岩手県観光鳥瞰図原図」を見学しました。 民俗部門の収蔵庫では、昔の暮らしを支 えた様々な民具を見学しましたが、その中で参加者に好評だったのがゼンマイで動く蓄音機です。実際に動かすと、温かく優しい音声が収蔵庫に響き、まるで昔にタイムスリップしたかのようでした。考古部門の収蔵庫では、参加者に本物の縄文土器を実際に持ち上げてもらい、その重さと感触を体感していただきました。初めて触れる本物の縄文土器に参加者は大満足の様子でした。

資料を保管し、後世に伝えていくことは博物館の担う大きな役割の一つです。 当館では今後も様々な資料の収集と保管を行うとともに、これからも県民の皆様に岩手の「宝物」を様々な形で公開する機会をつくっていきます。

(主任専門学芸調査員 久保 賢治)

# ■事業報告

# 第89回自然観察会「森林の生き物を観察しよう」

開催日 令和7年6月7日(土)

岩手県滝沢森林公園は盛岡の市街地からも近い無料の県立施設で、広い敷地の大部分は森林に覆われ、散策路や観察小屋、トイレ等も整備されていることから、気軽に自然と触れ合えて人気があります。春夏秋冬で姿を変える自然を身近に見ることができ、季節に応じて多種多様な動植物に出会えます。今回は初夏の森でさまざまな野鳥のさえずりを聞くことを目的に開催しました。元は5月31日の予定でしたが悪天候のため1週間延期し、6月7日の開催となりました。

当日は快晴で暑さに少し参ってしまうほど。隣で開催されていたロックフェスの爆音が響く中、涼しい森に突入です。さっそく姿を現したのはニホンジカ!林内を駆け抜ける姿と足音に驚きました。

さて肝心の野鳥のさえずりですが、季

節が進んで少し時期外れになってしまったことと、快晴で気温が上がって暑くなってしまったことで、鳥たちのさえずり活動性が弱くなり、あまり聞こえません。それでも唯一頑張って歌っていたのはキビタキで、林内のあちらこちらから「ピッコロピッコロ」と美声が響いてい



【自然観察する参加者の皆さん】

ました。また、シジュウカラやエナガは ヒナが巣立った頃で、危なっかしい子ど もを連れた家族群を何度も観察できまし た。エゴノキに群がるのはヤマガラで す。エゴノキの果実や種子は青酸カリ様 の有毒成分を含んで大変な猛毒ですが、 ヤマガラは毒が平気らしく、種子を好ん で食べます。今年のものはまだ小さく硬 くて食べられませんが、ヤマガラは昨年 に実って落ちた古い種子を地面から拾 い、突き割って中身を食べていました。

自然観察には少し不向きな暑い天候でしたが、多くの野鳥や動植物が登場し、 子育てや採食行動など野鳥のさまざまな 行動や生態を実際に見ていただくことが でき、楽しい観察会になったと思います。

(生物部門 髙橋雅雄)

# ■事業報告

# 第89回地質観察会「大船渡市の三畳系・白亜系露頭を巡る」

開催日:令和7年6月22日(日)

今年度1回目の地質観察会を6月22日 (日)に大船渡市大船渡町で開催しました。

当日はキャッセン大船渡に集合した後 に、全員で観察場所の須崎川周辺に移動 し、開会行事を行いました。開会行事で は本観察会の講師を務めていただいた古 澤明輝氏 (大船渡市立博物館 主任学芸



地層の観察の様子

員)からご挨拶をいただくとともに、周 辺の地質に関する簡単な説明をしていた だきました。

その後、徒歩で移動し、須崎川沿いに 見られる下部白亜系船河原層の露頭の観 察を行いました。船河原層は前期白亜紀 の浅い海の中で砂や泥、礫などが溜まっ てできた地層と考えられています。その ため、船河原層からは当時の海の中で生 きていた二枚貝や巻き貝などの化石が良 く見つかります。

今回の観察会では、船河原層のいくつ かの露頭を周りましたが、参加者は露頭 ごとにさまざまな化石を見つけており、 中にはとてもきれいに保存された巻き貝 の化石を採集した方もいました。また、 白亜紀の海の地層ということで、アンモ ナイトの化石が見つかるのではないかと 期待しましたが、残念ながら今回の観察 会では見つけることはできませんでした。

その後、閉会行事を行った後に、最後 に三畳系明神前層の観察を行いました。 明神前層は、岩手県内の北上山地南部に おいてはほぼ唯一と言える三畳紀の地層 です。とても貴重な場所であるため、今 回は化石の採集等は行いませんでした が、大船渡市が持つ地質の多様さに圧倒 されました。

気温が高い中での観察会となりました が、大きな事故もなく無事に終えること ができました。当館では、こうした観察 会を今後も継続して行っていきたいと考 えています。

(地質部門 望月貴史)

# ■事業報告

# りょう り もんじょ **綾里千田家文書の寄贈受け入れについて**

歴史部門では今年度、大船渡市綾里、 砂子浜集落にある旧家千田家から、同家 が保管してきた古文書約36.000点の 寄贈を受け入れました。

# (1) 千田家について

先行研究により概観すると、千田家は 戦国時代に起こり、砂子浜に集落を開い た家と伝わります。江戸時代には、地元 の百姓を組織して製塩業、漁業、林業な どを営み、地元の産品を自前の船舶に載 せ江戸方面へ輸送して販売する廻船商人 でもありました。仙台藩の治下で肝入と いう公的な立場にも就き、仙台藩の藩校 養賢堂の教授のような文化人も多く訪問 する家でした。明治時代以降になって も、気仙郡の区長や綾里村の村長などを 務めるほか、歴代の当主がこの集落で祭 祀を取り仕切るなど、まさに地域の顔役 として活躍し続けました。

# (2) 千田家の古文書について

千田家に代々伝わる膨大な古文書は、 早くから専門家の関心を集めてきまし た。森嘉兵衛、細井計といった岩手を代 表する歴史家も、経済史、漁業史といっ た分野でこの文書を用いて研究をしてい ます。近年では2005年から、三陸古 文書調査研究会(現、千田家文書研究 会) が悉皆調査を始め、古文書の整理と デジタル撮影を行い、目録化にも着手し ています。約36,000点という数、千 田家が果たしてきた役割を考えると、 質・量ともに全国的に見ても貴重な資料 群と評価できます。

# (3) 当館への寄贈について

2011年の東日本大震災津波での母

屋の被災(古文書は土蔵の2階で難を免 れる) や先代当主の逝去、今般の林野火 災など、度重なる危機を乗り越え、当館 への寄贈が実現しました。今後、千田家 や地域の皆様が守ってきた貴重な資料を 保存するとともに、展示や目録で広く公 開し、千田家と文書が果たしてきた人々 を繋ぐ役割を引き継いでゆく所存です。

(歴史部門 工藤健/大銧地駿佑)



【千田家の記録に残る、明治三陸地震津波】



### 〈令和7年9月1日~令和7年12月31日〉 インフォメーション

### ■お知らせ■

●資料整理にともなう休館

資料整理のため、9月1日(月)~9月10日(水)は休館します。

●敬老の日

9月15日(月・祝)の敬老の日は、65歳以上の方の入館料を無料とします。

●文化の日

11月3日(月・祝)の文化の日は、無料で入館できます。

# 展覧会

● テーマ展「いわての酒造り~酒からSAKEへの今昔物語~」

令和7年9月27日(土)~12月7日(日)

会場: 2階・オザワ工業ぎゃらりー(特別展示室)

昨年ユネスコの「人類の無形文化遺産の代表一覧表」に「伝統的酒造り」が 記載(登録)されました。岩手県では「南部杜氏」が世界に認められた伝統 的酒造りの知識と技術をつないできました。本展覧会では、南部杜氏を中 心としたいわての酒造りに着目し、その歴史や製造技術、岩手の酒文化な どについて展示・紹介します。

### ◆一般向け展示解説会 会場:特別展示室、当日受付、要入館料

- ① 9月27日(土)14:30~15:30
- ②10月26日(日)15:10~16:00(県博日曜講座終了後に実施)
- ③11月29日(土)14:30~15:30

◆子ども向け展示解説会 会場:特別展示室、当日受付、要入館料

10月13日(月·祝) ①11:00~11:30 ②15:00~15:30

# ◆文化講演会 当日受付 聴講無料

- 11月3日(月·祝) 13:30~15:30
- ①「いわての酒造り技術について」 ※40分程度
- 山下佑子氏(岩手県工業技術センター 醸造技術部上席専門研究員)
- ②「いわての日本酒の関わりについて」 ※40分程度
- 藤村惠一氏(株式会社エフエム岩手 代表取締役社長) ③「質疑応答・パネルディスカッション ※40分程度
- 登壇者:山下佑子氏、藤村惠一氏、戸根貴之(当館学芸課長)

# ◆民俗講座「いわての酒造見学会」

10月18日(土) ①10:30~ ②14:00~ ※各70分程度 株式会社あさ開の酒蔵とその水源(大慈清水)を見学します。 (荒天時は酒蔵のみ見学、小雨決行)

会場: 盛岡市・あさ開昭和旭蔵及び鉈屋町周辺(現地集合・解散)

講師:株式会社あさ開、戸根貴之(当館学芸課長)

料金:100円

対象・定員:各回とも一般10名程度(小学生以上/小学生以下は保護者同伴) 参加方法:予約制/専用メールにて10月1日(水)~10月13日(月・祝)の 期間に先着順に予約を受け付け、定員充足しだい締め切ります。詳しくはお 問い合わせください。

# ■県博日曜講座■

# 第2.第4日曜日 13:30~15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

\*展覧会関連講座

9月14日 「縄文人の移動と交流」

高木 晃(当館学芸課長)

9月28日 「モノ・コトが資料になるまでの物語り~民俗資料を例に~」

川向富貴子(当館学芸員)

\*10月26日 「いわての酒造りの展示から」

戸根貴之(当館学芸課長)

\*11月 9日 「江戸の酒を読む一物語に見る酒の文化-」

畑 有紀 氏(名城大学外国語学部准教授)

11月23日 「出土した箔椀のはなし一岩手の漆椀一」 清水 香 氏(岩手大学人文社会科学部准教授)

12月14日 「考古学者がやっていること一「編年」て何?」

金子昭彦(当館学芸員)

12月28日 「気仙隕石落下一件を読む」

大銧地駿佑(当館学芸員)

# ■ 第14回博物館まつり ■

令和7年10月12日(日)·13日(月·祝) 9:30~16:30

場所:本館・屋外 対象:一般(体験コーナーは小学生以下)

工作たいけんなど、子どもイベントいっぱいの2日間です。詳しくはHPを ご覧ください。(事前予約が必要なコーナーがあります。)

# ■ 民俗講座「たいけん! むかしのくらし」 ■

令和7年9月21日(日) 全4回(所要時間25分)

①10:00~ ②11:00~ ③13:00~ ④14:00~

昔の道具を使って洗濯などを体験してみましょう。 対象:幼児(4歳)~中学生とその保護者(各回3組)要入館料(高校生以下無料) 専用メールで申込。詳細はお問い合わせください。

# ■ 観察会・見学会 ■

# ◆第90回地質観察会

令和7年10月25日(土) 10:00~15:10 要事前申込 場所:盛岡市·雫石町(予定)(現地集合)

定員:20名(小学生以上、小学生は保護者同伴) 参加費:100円 ※電子メールのみの受付。詳細が決定次第、ホームページに掲載します。

◆第90回自然観察会 「秋の生き物を観察しよう」

令和7年9月23日(火·祝) 9:30~12:00 要事前申込

場所:雫石町・網張スキー場周辺

定員:20名(小学生以上、小学生は保護者同伴) 参加費:100円 ※詳細が決定次第、ホームページに掲載します。

# ■週末の催し

# **◆**ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30~15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○10月4日 戸田家の兄妹(小津安二郎監督の名作選) (実写/106分/一般向け)

○11月1日 午後の遺言状(新藤兼人監督の名作選) (実写/112分/一般向け)

○12月6日 ムーミン谷とウインターワンダーランド (パペットアニメ86分/幼児~小学生向け)

※9月はお休みします。

# ◆チャレンジ!はくぶつかん

# 毎月第2・第3土曜、日曜 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがして はくぶつかんをたんけん! 9月13日 14日 15日 20日 21日 テーマ:骨(ほね) テーマ:走る(はしる) 10月11日-12日-13日-18日-19日 11月 8日・9日・15日・16日 テーマ:水(みず) 12月13日 · 14日 · 20日 · 21日 テーマ:つるつる

◆たいけん教室~みんなでためそう~(事前申込制)

毎週日曜日 13:00~14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽 選を行います。詳細は博物館ホームページをで確認ください

	送で1100の90計画の時初貼が 1	7. /	ا ب ر	こ)性型のヘイことでも
9月	9月はお休みです。	11月	16日 23日	まが玉アクセサリー ヨーヨーの絵つけ 砂絵 土偶づくり 松ぼっくりのXmasツリー
10 月	5日 天然石のフォトフレーム 12日 博物館まつりのためお休み 19日 スライムであそぼう 26日 カラフルクモづくり	12月	7日 14日 21日 28日	松ぽっくりのXmasツリー かんたん門松 まゆで干支づくり(午)★ まゆで干支づくり(午)★

★印は午前(10:00~11:30)と午後(13:00~14:30)の2回あります。

# ■ 利用のご案内 ■

■開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)

月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館) ■休館日

※9月1日(月)~10日(水)は、資料整理のため休館します。

■入館料 350(160)円·大学生160(80)円·高校生以下無料

)内は20名以上の団体割引料金

※9月15日(月・祝)敬老の日は、65歳以上の方の入館料無料。

※11月3日(月・祝)文化の日は、入館料無料。

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様とご一緒に来 館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除とな ります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びそ の付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館

岩手県立博物館だより
<b>年100</b> 年

第186号 令和7年9月1日発行

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸 13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595